

1 地域の特徴

(1) 位置・地勢等

中丹地域は、京都府の北部に位置する、福知山市、舞鶴市及び綾部市からなる丹波山地の山々と日本海に囲まれた地域です。

東西は56km、南北は50kmにわたり、面積は約1,241km²で京都府域の約27%を占め、丹後地域、南丹地域、福井県の嶺南地域と兵庫県の但馬・丹波地域に隣接しています。

海岸線や岩礁等の迫力ある風景が見られる若狭湾（若狭湾国定公園）、幻想的な雲海が見られる大江山連峰（丹後天橋立大江山国定公園）や君尾山（京都丹波高原国定公園）をはじめ、地域を貫流する由良川の豊かな流れ、緑豊かな里山の風景、美しい星空など、「海」・「山」・「川」等のあらゆる自然に恵まれています。

(2) 歴史・文化

丹波山地の山々と日本海に囲まれた中丹地域は、豊かな自然を背景に、歴史的に丹波と丹後の個性あふれる生活・文化・経済圏を形成してきました。

縄文時代や弥生時代には、由良川流域を中心に集落が営まれ、古墳時代には、由良川を見下ろす丘陵上の私市円山古墳（綾部市）をはじめとした数千基の古墳が築かれ、奈良時代には、古代寺院が建立されていたことも確認されています。

平安時代には、山岳寺院が開かれ、仏像、祭礼、芸能、薬師信仰や鬼退治伝説など特色ある文化や文化財が現在まで伝えられています。鎌倉時代には、府北部の建造物では唯一の国宝として知られる光明寺二王門（綾部市）が建立されています。

南北朝時代から戦国時代にかけては、多数の山城が築かれました。また、丹波は、室町幕府を開いた足利尊氏との関係も深く、安国寺（綾部市）には足利尊氏生誕の伝承が残されています。さらに、織田信長の丹波平定後には、丹波の福知山は、由良川の築堤等も行った明智光秀が領主となり、丹後の舞鶴は、和歌等に通じた文化人でもあった細川幽斎（藤孝）が領主となり、それぞれ福知山城と田辺城を築城し、城下町がつくられ商業が栄えました。

江戸時代には、福知山藩、田辺藩、綾部藩の置かれた城下町がそれぞれ独立して栄え、今日の福知山市、舞鶴市、綾部市の礎となりました。また、由良川の水運が経済の動脈として利用されるとともに、今日の京阪神に至る内陸交通が発達しました。

明治維新を迎えるに当たり、山城・丹波（一部は兵庫県）・丹後の3国が京都府の府域となり、丹波・丹後の両国にまたがる中丹地域も、幾たびの変遷を経て京都府に属することとなりました。

明治時代には福知山市に旧陸軍の歩兵第20連隊が、舞鶴市に多くの赤れんがの建造物とと

もに旧海軍の舞鶴鎮守府が置かれました。現在は、福知山市に陸上自衛隊の第7普通科連隊等が置かれている福知山駐屯地、舞鶴市に海上自衛隊の舞鶴地方総監部等が置かれている舞鶴地方隊、第八管区海上保安本部など国防や海上の保安を担う機関が置かれています。

（３）管内３市の沿革及び広域連携

管内３市については、昭和１２（１９３７）年に福知山市が市制を施行し、翌年の昭和１３（１９３８）年に舞鶴市が、昭和２５（１９５０）年に綾部市が市制を施行しました。これは府内では京都市に次いで２番目から４番目に古い市制施行となっています。その後、それぞれ旧町村の編入等を経て（近年の編入は、平成１８（２００６）年に福知山市と三和町・夜久野町・大江町の合併）、現在の市域を形成するに至っています。

管内３市では、昭和２５（１９５０）年の綾部市による日本初の「世界連邦都市宣言」に続いて、福知山市及び舞鶴市も同宣言を行ったほか、以降も文化やスポーツの分野において共同開催に取り組むなど連携が進められてきました。

平成２７（２０１５）年４月には、管内３市と丹後広域振興局管内の市町（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）が「京都府北部地域連携都市圏形成推進宣言」を行い、「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会」（以下「北部５市２町協議会」という。）を設立して、府北部の５市２町それぞれが有する強みを生かし、「海の京都」の推進、地域産業の活性化、地域産業の担い手確保等のプロジェクトが進められています。

令和３（２０２１）年３月には、「人口減少を克服し、未来への希望を紡ぐ連携都市圏」を圏域の将来像に掲げた「第２期ビジョン」を策定、「水平型の連携」の実現をめざした５市２町の連携施策の取組が「産業」「観光・交通」「教育」「移住・定住」「環境・防災」「行政運営」の各部会体制で進められており、令和４（２０２２）年５月には、５市２町による災害応援協定が締結されたところです。

（４）交流基盤

京都舞鶴港は天然の良港で、古くから北前船の寄港地として知られ、東港は明治３４（１９０１）年に海軍鎮守府が設置され軍港として、西港は大正２（１９１３）年に大型船用の埠頭が完成したことから、対岸貿易を中心とした日本海側の重要な商港としてそれぞれ栄えてきました。

第二次大戦後、昭和２０（１９４５）年から１３年間にわたり大陸からの引揚者６６万人余を迎え入れるとともに、昭和２３（１９４８）年に貿易港として再出発し、昭和２６（１９５１）年には国の重要港湾に指定されました。

昭和２８（１９５３）年から京都府が港湾管理者となり、平成２３（２０１１）年には、三つの機能（国際海上コンテナ、国際フェリー・国際ＲＯＲＯ船、外航クルーズ（背後観光地ク

ルーズ))で、国から「日本海側拠点港」に選定され、関西唯一の日本海側ゲートウェイとして大きな役割を果たすとともに、令和4(2022)年には「京都舞鶴港うみとびら」を中心とした西港周辺が「みなとオアシス」として登録され、「みなと」を核とした地域住民の交流促進、魅力発信が今後期待されます。

また、高規格幹線道路として、大阪・神戸や中京圏にアクセスする舞鶴若狭自動車道と、京都府の南北軸を形成する京都縦貫自動車道があり、これら二つの道路が綾部でつながっています。管内3市にはいずれもインターチェンジがあって、高速道路を利用した相互の移動も容易となっています。

舞鶴若狭自動車道は、中国自動車道の吉川JCTから福知山市、綾部市、舞鶴市、小浜市を経て敦賀市の北陸自動車道に至る全長約162kmの高速道路で、平成26(2014)年に小浜ICから敦賀JCT間が開通して全線が通行できるようになり、中京圏へのアクセスが向上しました。

京都縦貫自動車道は、宮津市から久世郡久御山町に至る全長約100kmの自動車専用道路で、京都府域を南北に縦貫し名神高速道路、舞鶴若狭自動車道等に接続しています。平成27(2015)年に丹波綾部道路の京丹波わちICから丹波IC間が開通して全線が通行できるようになり、京都方面へのアクセスが向上しました。

加えて、令和3(2021)年の舞鶴若狭自動車道の福知山ICから綾部IC間の4車線化により吉川JCTから舞鶴西IC間の4車線化が実現したほか、令和5(2023)年4月には、京都縦貫自動車道の宮津天橋立ICから丹波IC間の西日本高速道路株式会社への移管が予定されるなど、全国的な高速道路網と一体となった利用促進等を図るための環境も整いつつあります。

一般道では、国道9号・27号・173号・175号・176号・177号・178号・426号・429号、主要地方道小浜綾部線・福知山綾部線・綾部大江宮津線・舞鶴野原港高浜線・東舞鶴停車場線・福知山停車場線・京丹波三和線・池辺京田線・小倉西舞鶴線・綾部美山線・舞鶴宮津線・舞鶴和知線・舞鶴福知山線・但東夜久野線・市島和知線・山東大江線・志高西舞鶴線・舞鶴綾部福知山線・綾部インター線・篠山三和線等の道路網が地域内外を結んでいます。

鉄道網は、京都から綾部や福知山につながるJR山陰本線をはじめ、明治時代に大阪から福知山・綾部を通過して舞鶴までをつないだ阪鶴鉄道をルーツとするJR福知山線・舞鶴線、敦賀と舞鶴を結ぶJR小浜線、第三セクターの北近畿タンゴ鉄道の運営を経て、現在は上下分離により運行されている京都丹後鉄道(丹鉄)宮福線・宮舞線が整備されています。

(5) 産業

中丹地域の地域内総生産(平成30(2018)年度)は9,238億円で、府内全体の8.5%(京都市を除く府内全体の22.9%)を占めています。業種別では、製造業が2,

953億円で中丹地域全体の32.0%を占め、次いで、電気・ガス・水道・廃棄物処理業が942億円で10.2%を占めています。また、1人当たりの地域分配所得は2,954千円（府内全体2,983千円）となっています。

産業別就業人口（令和2（2020）年）は、製造業が16,428人で中丹地域全体の18.1%を占め、次いで卸売業・小売業が12,264人で13.5%を占めています。また、農林水産業は4,129人で4.6%を占めています。

中丹地域の豊かな自然の下で育まれた特産品は、日本海で獲れるカニや丹後とり貝等の海の幸、丹波くり等の山の幸、万願寺甘とうをはじめとしたブランド京野菜等、四季を通じて豊かな食を提供しています。

特に、万願寺甘とうは、平成29（2017）年に農林水産物を地域ブランドとして保護するG I（地理的表示）保護制度への府内初登録を受けたほか、J A京都のくに万願寺甘とう部会協議会が、令和3（2021）年度に「日本農業賞」集団組織の部大賞、令和4（2022）年度に「農林水産祭」園芸部門で内閣総理大臣賞を受賞しました。

茶は、全国茶品評会「かぶせ茶」の部において、中丹地域の茶産地が平成20（2008）年から12年連続で「産地賞」を獲得するなど、付加価値の高い特産品づくりが進められています。

また、売れる米づくりとして、酒米の「祝」や「京の輝き」、おいしいお米の京都府新品種「京式部」の栽培が進められており、作付面積が一番多い「コシヒカリ」は令和3年度日本穀物検定協会食味ランキングにおいて「特A」を獲得しました。

畜産は、ブロイラーが府内飼養羽数の8割、採卵養鶏も5割を占めるなど、養鶏が盛んに営まれています。

林業について、管内の森林面積は、95,544haで総面積の77%を占め、林業事業者13社による令和3（2021）年度の素材生産量は5万7千m³となっています。

中丹地域を特徴付けている製造業では、由良川の自然を生かした桑栽培と養蚕業が盛んに行われていたことから、綾部市に明治29（1896）年に蚕糸業として現在のグンゼ株式会社が設立され、製糸機械製造のための機械工業も盛んに行われて現在のものづくり産業の礎となりました。

管内の製造業は、工業団地（長田野工業団地、長田野工業団地アネックス京都三和、綾部工業団地、綾部市工業団地、平工業団地等）を中心に産業が集積するとともに、舞鶴市における造船業・ガラス製造業など地域を牽引する企業やそれに関連する機械金属加工業、綾部市における繊維産業から発展した機械器具製造業等の地場産業、精密電子部品の工場が立地し、雇用の場が形成されています。

なかでも、旧陸軍の演習地であった場所に造成され、昭和45（1970）年から分譲がはじめられた長田野工業団地は41社が操業し、製造品出荷額は、約3,050億円（令和3（2021）年度）、従業員数も7,058人（令和4（2022）年4月現在）にのぼり、ともに過去最高となりました。

平成元（1989）年以降二つの工区ごとに分譲が行われた綾部工業団地には21社が、平成14年（2002）年から分譲がはじめられた長田野工業団地アネックス京都三和には15社が、操業しており、3つの工業団地を合わせた製造出荷額は、約3,875億円（令和3（2021）年度）で管内全体の6割に匹敵する規模となっており、従業員数も9,503人（令和4（2022）年4月現在）にのびります。

中丹地域の観光産業は、戦国武将・明智光秀が築いた「福知山城」、国の重要文化財に指定されている赤れんが倉庫群を活用した「赤れんがパーク」、グンゼ博物苑・あやべ特産館・綾部バラ園が一体となった「あやべグンゼスクエア」をはじめ、多様な観光施設が整備されています。

高速道路網の整備や、「海の京都」「森の京都」のコンセプトに基づく観光誘客の取組等により、令和元年には、観光入込客数が約419万人、観光消費額が約74億円となり、増加傾向にありましたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受けています。

（6）暮らし

中丹管内の特徴的な人の動きとして、夜間人口よりも昼間人口が多く、昼間の流入が多くなっています。これは府内の4広域振興局管内の中で唯一の地域であり、高等教育機関、病院、文化スポーツ施設、国・府等の機関や、支店・営業所・工場など企業の拠点多いことも理由の一つと考えられます。

高等教育機関としては、福知山公立大学、京都工芸繊維大学福知山キャンパスや舞鶴工業高等専門学校等が立地しています。

また、管内には16の病院があり（福知山市6病院、舞鶴市7病院、綾部市3病院）、各市とも1病院ずつ公立病院を備えるとともに、各市において病院間や、病院と診療所間の連携強化を進めるなど地域医療の確保・充実が図られています。

文化スポーツ施設も整備されており、総合体育館・動物園・都市緑化植物園等を有する三段池公園（福知山市）、収蔵資料がユネスコ世界記憶遺産に登録された舞鶴引揚記念館（舞鶴市）、あやべ球場・体育館・弓道場等を有する綾部市総合運動公園（綾部市）、千人規模の観客を収容するホールを有する福知山市厚生会館（福知山市）、舞鶴市総合文化会館（舞鶴市）や京都府中丹文化会館（綾部市）など、多様な機能を持つ施設の利用が可能となっています。

また、子育て支援施設では、三段池公園（福知山市）の児童科学館や動物園、子育て交流施設あそびあむ（舞鶴市）が整備されているのに加え、綾部市では駅北複合施設の整備が進められています。

(7) 人口（今と20年後の姿）

中丹地域の人口は、平成27（2015）年に19.7万人となっていますが、令和22（2040）年は15万人にまで減少すると推計されています（国立社会保障・人口問題研究所推計）。減少率は23.6%で、京都府全体の減少率14.3%よりも9.3ポイント高く、全国の減少率12.7%よりも10.9ポイント高い数字です。

また、高齢化率も上昇し、平成27（2015）年の31.1%に対して、令和22（2040）年は37.3%と見込まれています。これは、令和22（2040）年の京都府全体の高齢化率36.1%よりも1.2ポイント高く、全国の高齢化率35.3%よりも2ポイント高い数字です。

年齢階層別の人口内訳を見ると、65歳以上74歳未満は、6.1万人から5.6万人へと21.3%減少することが見込まれており、京都府全体の減少率8.9%や、全国の減少率4.2%よりも大きくなっています。一方、75歳以上の人口は、3.2万人から3.3万人へと4.1%増加することが見込まれていますが、京都府全体の増加率36.3%や全国の増加率37.2%よりは小さくなっています。

また、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は、11万人から7.7万人へと29.8%減少し（京都府全体23.7%減少、全国22.7%減少）、15歳未満の人口も、2.6万人から1.7万人へと33.3%減少する（京都府全体27.9%減少、全国25.1%減少）推計となっています。

このような人口減少をとらえる場合、自然減（出生数－死亡数）と社会減（転入者数－転出者数）の状況を見ておく必要があります。

人口の自然減について、出生数が減少傾向にあります。その一方で、合計特殊出生率は高くなっています。

福知山市 2.02（府内1位）

舞鶴市 1.90（府内2位）

綾部市 1.62（府内6位）

京都府 1.32

※平成25（2013）年から平成29（2017）年平均

合計特殊出生率は、一般的に正規雇用率が高いことや親との同居・近居が多いことなど関係しているとされていますが、この地域では、管内3市の施策や子育て支援団体による支援とともに、都市的な利便性や、人と人がつながり孤立しない関係性があるなど充実した子育て環境も大きな要因の一つと考えられ、この点を伸ばしていくことが重要となっています。

人口の社会減については、前述のように地域に高等教育機関が立地し若者が集まりやすい

環境もありますが、高等学校卒業後に進学や就職等により地域を離れる若者はそれ以上に多い状況にあります。

近年は移住・定住促進の取組等を通じて I ターン等による移住も増えてきており、地域の魅力発信、仕事おこしや就職のマッチング等を通じた更なる I ターンの推進や、いったん地域を離れた人の U ターンの促進に取り組むことが重要です。

(8) 自然災害

中丹地域では、平成 16（2004）年以降、5 回の大きな豪雨災害に見舞われています。

災害救助法の適用を受けた災害

平成 16（2004）年 台風第 23 号

平成 25（2013）年 台風第 18 号

平成 26（2014）年 平成 26 年 8 月豪雨

平成 29（2017）年 台風第 21 号

平成 30（2018）年 平成 30 年 7 月豪雨

さらに近年、毎年のように全国各地でこれまで経験したことのないような豪雨により、深刻な災害が発生しています。

災害発生後は早期の災害復旧を図るとともに、中長期視点に立った治水対策を進めているところですが、生命を守る観点から早期の避難が重要となっており、避難に関する住民一人ひとりの意識の向上や地域ぐるみでの防災・減災対策が必要となっています。